

topic

- 【1】反貧困ネットぐんまの食料支援に参加（山梨民医連社保学校FW）
- 【2】笛吹市議会で「インボイス中止を求める意見書」請願採択／日本高齢者人権宣言学習会／自治体キャラバン

山梨 社保協 ニュース

山梨県社会保障推進協議会

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-9-28
勤医協駅前ビル6階
TEL/FAX 055(222)5882

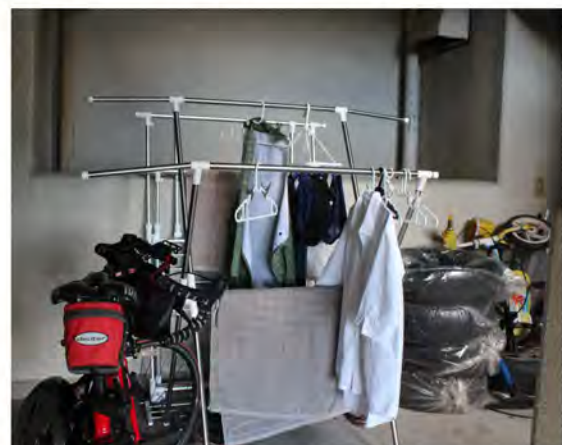
syaho@s.yamanashi-min.jp

反貧困N ぐんまの食料支援・相談活動に参加

山梨民医連 第4期社会保障学校 フィールドワーク 受講生ら14人



▲空き部屋に続く階段・踊場に放置された廃棄物。



▲空き部屋の多い棟の共用部分。



▲コメを2kgずつ袋分けする山梨民医連の参加者。



▲グループ討議で日中のポスティング行動の経験交流



▲開始1時間前から長蛇の列ができた前橋公園



▲食料を手渡す山梨民医連の社保学校受講生（左側）



▲公園近くの群馬県教育会館内に設けられた相談会場の様子

山梨民医連の「社会保障学校・食料支援フィールドワーク」が9月29・30日に群馬県前橋市で取り組まれました。「反貧困ネットワークぐんま」の食料支援活動に参加したもので、全日本民医連の「人権としての社保セミナー」の一環でもありました。山梨民医連からは14人が参加し、群馬・埼玉・新潟・長野からの参加者とともに活動し、学習し、交流しました。大規模集合住宅団地へのお知らせチラシのポスティング、食料の仕分け・運搬、貧困問題の学習とグループ討論、会場設営、食料配布、法律相談・生活相談会場への同席・記録、等々の活動に取り組みました。山梨民医連の参加者に感謝を聞きました。

経験を共有し、山梨でも実現させたい

大規模集合住宅団地でのポスティングでは、1軒1軒のドアポストにチラシを入れながら、各種各戸のドアポストにチラシを入れる様子などから、暮るんだ」という想いで投函

30日の朝は大雨、開催が危ぶまれましたが、雨はあがり開催に。雨あがり直後から会場の公園には長蛇の列ができ、237組が訪れました。前日のポスティングのチラシを見て来た人も、群馬での食料の渡し方は、袋詰めした食料を配るのでなく、限られた範囲ながらも来場者が欲しいものを選ぶ（ピュッフェのような）スタイルでした。食品を選ぶ子どもたちや高齢者たちの笑顔を見て、「自分が持ち帰るものを自分で選ぶ」とが、その人の尊厳の維持

や生きる希望に繋がるのではないか」と思いました。この体験を山梨で食料支援活動に携わる人々と共有したいと思いました。

「反貧困ネットぐんま」では今回の行動のために、前橋市内の小中学校や保育所への案内、市内の公営住宅団地へのポスティングなど大規模なお知らせ活動で食料配給・相談の利用を呼びかけました。また、相談に応じるため、法律家やさまざまな専門家の力を借りる仕組みもありました。山梨でも実現できればいいと思いました。

そして可能なら、今回の群馬での経験や学びを活かして、山梨での「食料支援活動行動計画」づくりを、私たち第4期社保学校の課題として取り組み、修了発表会で行動計画を発表し、山梨民医連やさまざまな団体、さまざまな人々に提案して、食料支援を実現させたいと考えています。次回の社保学校の折に相談してみたいと思います。

（以上、やまなし勤労者福祉社会事務局の山田美名子さん・ショートステイたから矢崎啓太さんによる寄稿）

山梨社保学校受講生らの感想から

★ポスティングした集合住宅（5階）にはエレベーターがなかった。高齢者はどう生活しているのか。戸口に荷物やゴミが集積しているのもエレベーターがないことが関係しているのではないかと気がすることがあった。【甲府共立病院/事務】

★困窮事例のどれもが複数のSDHの要因が関係していること、困窮は外見からはわかりにくいと実感しました。自事業所でも活動を実現できるように努めて行きたいと思っています。【まいほーむさるはし/事務】

★荷物が溢れて階段の踊り場に出ていたり、鳥のフンや猫用の砂が階段に散乱していたりしてました。この住人はどんな人なのか、安全で平和な暮らしができていないのだろうかと考えさせられました。アウトリーチの大切さを実感しました。【ショートステイももその/生活相談員】

★群馬では、食品の確保、食料配給の会場、弁護士との協力など体制が整っていません。医療、介護、障害、失業、生活保護、教育等、貧困が進まないよう社会保障の拡充が必要と強く感じました。10月はいさわセンターでマルシェを予定しています。群馬のように弁護士士の協力体制があればお地域の悩みに寄り添えると思えます。【居宅介護事業所ほほえみ/ケアマネージャー】

★各棟で空室が多く、その理由も気になりました。【共立介護福祉センターいけだ/事務】

★1棟に2〜3戸しか入居していない。共用スペースの粗大ごみ集積や、ごみステーションのルールが守られていないのは、言葉を理解できない方々かもしれない。群馬の暑い夏にエアコンのなきような部屋。高齢者にはきびしい階段や道路の傾斜も。様々な困難が目に見えます。それでも、ペランダで花や観葉植物を育てている部屋もあり、その人らしい暮らしがそこにあるのだとも思いました。【介護サポートいけだ/ケアマネージャー】

★食料支援では、ほとんどの方が「ありがとう」と言ってくれました。食品を選ぶ時の真剣な顔、嬉しそうな表情も共通してました。選択する、自分の意見（希望）を言う機会を提供できたことが良かったと思います。【ショートステイももその/介護職員】

★生活保護申請においては車の保有が認められないことが多く申請をあきらめる方もいる。私が同席した相談者も車のために生活保護申請に前向きに考えられていなかった。誰もが生活しやすい社会となるよう、政府も危機感をもって考えてほしい。私たちも声をあげていく必要があると改めて実感した。【甲府共立病院/MSW】

「インボイス中止を求める意見書」請願を採択

笛吹市議会9月定例会で／峡東民主商工会が提出



▲甲府駅頭から訴える雨宮さん

「中止に向けてさらに運動を」 雨宮富美男会長が決意表明

笛吹市議会9月定例会で、峡東民主商工会が提出した「インボイス制度の中止を求める意見書」が賛成多数で採択されました。同請願を提出した峡東民商の雨宮富美男会長に聞きました。

9月19日、民主商工会が提出した「インボイス制度の中止を求める意見書」に関する請願が審議される。笛吹市議会総務委員会を傍聴しました。

この制度は、インボイス（適格請求書）を発行しなければ、取引先が仕入れや経費にかかる消費税を差し引けないため、免税事業者の場合には課税事業者になつて消費税をおさめるか、消費税分値引きをするか、の選択がせまられます。

賛成意見は「小規模業者にとって負担が重くなる。10月制度施行は性急すぎる。自らも業者なので再検討が必要と思う」など。反対意見は公明党議員から「消費税は社会保障に使われているので必要。免税業者は益税なので負担すべき。岸田首相も公明党も負担軽減に尽力している」というもので、唯一の反対意見でした。傍聴席にいた私は、「消費税は社会保障には回っていない。社会保障のどこが良くなったのか。消費税は預かり金ではなく価格の一部だ」と、怒りで声が出そうになりました。「公明党支持者には小規模事業者はいいののか」と思いました。委員会の採決は4対1で



日本高齢者人権宣言を学び活かそう

高齢者人権宣言を学び活かそう

～鐘ヶ江氏を迎え、山梨県高齢期運動連絡会が学習会～



▲鐘ヶ江正志さん

「日本高齢者人権宣言」は、4年間にわたる全国的な討議を経て、昨年の日本高齢者大会で採択されました。「宣言」は、高齢者に保障されるべき人権として23の項目を示しています。それは、今年の国連ワシントングループでも高く評価されています。

講義で鐘ヶ江さんは、▼分断支配されている日本社会において、連帯を取り戻す共通の理念としての「人権」の重要性、▼人権後進国の日本で、国際基準に基づく「高齢者人権宣言」を起草・採択した高齢期運動の役割と意義、▼コロナ禍で鮮明になった「高齢者人権条約」の必要性、などについて分かりやすく説明。そのうえで、「『宣言』確定後、最初の高齢者大会（東京）を成功させましょう」と訴えました。

2023年第36回 日本高齢者大会in東京

- ①11月12日(日) 13:00～ 【学習講座・分科会】 会場：大正大学
- ②11月12日(日) 10:15～ 【全体会・記念講演】 会場：文京シビックセンター大ホール 講演：柳澤協二さん「非戦の安全保障論～戦争しない国であり続けるために」

★会場参加：1日2,500円／2日5,000円
 ★Web参加：1日1,500円／2日3,000円
 ★山梨からはバスで参加します(交通・宿泊代別)

★柳澤協二さん／元内閣官房副長官補／防衛庁運用局長など歴任／新外交イニシアティブ理事／NPO法人国際地政学研究所理事長

山梨県社保協 自治体キヤラバンすすむ

補聴器助成、子ども医療費、保険料、窓口負担、保険証：課題も、話題も、盛りだくさんで進行中

富士吉田市への要請・懇談

富士吉田市への要請・懇談では同市より、この10月から加齢性難聴者への補聴器購入費助成を開始したことが報告されました。県内自治体では、山梨市、甲州市につづいて3例目です。同市からはまた、この10月から、国民健康保険における資格証明書の発行を中止したことも報告されました。住民福祉増進の積極的な側面の一環で、同市は国保について「加入者全員による相互扶助制度である」と

高3まで拡大を試算 小菅村

子ども医療費無料化をめぐり、県内他市町村がすべて「18歳まで無料」なのに、小菅村だけが「15歳までの無料」。懇談では村より、「さまざまなか場で、小菅村だけが15歳まで」と言われているので、村長から（18歳まで無料化拡大についての）試算を指示されています」との説明がありました。

国保の構造問題で意見交換

どの市町村への要請・懇談でも、「国保の構造問題」（多くの医療を必要としながらも国保料・税の負担が困難な困窮者がたくさん存在するという矛盾）をどう解決・改善するか」が話題となりました。



▲富士川町への要請・懇談



▲市川三郷町への要請・懇談



▲昭和町への要請・懇談

今年度から県内市町村で初めて、加齢性難聴者への補聴器購入費助成制度を開始した山梨市。懇談では、「国保への公費投入増を」「法定外繰入れを拒む理由として、受益者負担原則」を掲げたら、自治体自身も国に対して国庫負担増を要求できなくなってしまう」「国保に留まる困窮者を、生活保護や公費負担医療に移動させる努力を」などが議論されました。



▲大月市への要請・懇談



▲都留市への要請・懇談